

令和元年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修「学習プログラム研修」

講義・演習

# 「学習プログラム開発の実際Ⅰ」

講義・演習のねらい

個別事業計画の基本的な知識と作成方法を学ぶことを通して、具体的な学習プログラムの開発を行えるようになる。

# 演習の流れ

<b>ステップ 1</b>	<b>学習プログラムの作成 I</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「シートA」 の作成</li></ul>
<b>ステップ 2</b>	<b>学習プログラムの作成 II</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「シートB」 の作成</li></ul> ※ 「シートC」 （各回の実施計画） は、今回作成しません。
<b>ステップ 3</b>	<b>学習プログラムの作成 III</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 「シートD」 の作成</li><li>・ 「シートB」 への転記</li></ul>

グループのメンバーで協力して、時間内で各シートを完成させましょう。

## ○テーマ

事前アンケートをもとに決定（テーマごとにグループ分け）

## ○市の概要（ぱれっと市）

**A：少子高齢化が進む中山間地域**

**B：新しい住宅団地（ニュータウン）**

（地元出身の旧住民と、引っ越してきた新住民とが混在している地域）

**C：地域のつながりが希薄化する都市地域**

○市の概要（ぱれっと市）を決める。

**A：少子高齢化が進む中山間地域**

**B：新しい住宅団地**（ニュータウン）  
（地元出身の旧住民と、引っ越してきた新住民とが混在している地域）

**C：地域のつながりが希薄化する  
都市地域**

⇒グループワーク 3分程度

- ・「シートA」(A2)

### 「個人の要望」

個々人の主観的ニーズ

【調べる方法】

- ・ 住民調査 (アンケート)
- ・ 日常的な住民との交流

### 「社会の要請」

公共的ニーズ

【調べる方法】

- ・ 行政資料 (総合計画, 基本計画)
- ・ 広報資料, 統計資料

参考

皆さん自身のニーズ (思い) や日頃の経験

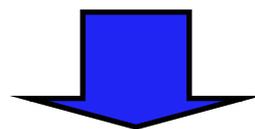
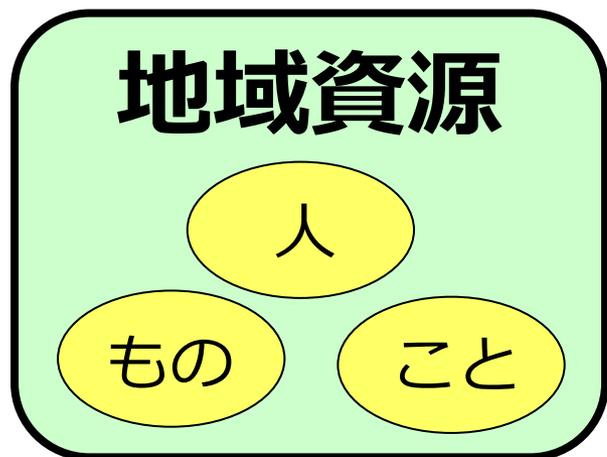
- 参考資料 3 生涯学習に関する世論調査
- 参考資料 4 青少年教育に関する資料
- 参考資料 5 家庭教育支援に関する資料
- 参考資料 6 高齢者教育に関する資料

参考

- 参考資料 1 ぱれっと市長期総合計画
- 参考資料 2 ぱれっと市生涯学習推進計画

## 客観的データに基づいた整理

## 「個人の要望」と「社会の要請」



## 地域課題 の発見・分析

- 地域住民の求めに応じていくべき課題
- 地域で解決しなければならない課題

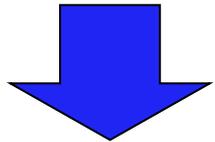
- ・ 地域に必要なプログラムとは？
- ・ 地域課題を解決・改善するプログラムとは？
- ・ 地域資源を活用したプログラムとは？
- ・ たくさん人が集まるプログラムとは？
- ・ お金がかからずできるプログラムとは？

## 個人の要望

近所の川で、親子で川遊びや魚釣りをしたい。

## 社会の要請

地域資源を生かした、市民協働のまちづくりを進めたい。



2つをバランスよく組み合わせて、地域課題を1つ設定する

## 地域課題

○地域の中心となって流れているぱれっと川が汚れているが、地域住民が川を取り巻く環境問題について自分たちの生活に関連付けて生活していない。

# 「シートA」の作成

**「個人の要望」と  
「社会の要請」から  
「地域課題」を整理する。**

## ⇒個人ワーク

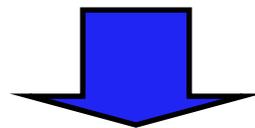
- ・「シートA」(A4) ・ぱれっと市総合計画
- ・ぱれっと市生涯学習推進計画 ・その他持参資料等
- ・参考資料(青少年教育)(家庭教育支援)(高齢者教育)

## ⇒グループワーク

- ・「シートA」(A2)

# 地域課題

- 地域住民の求めに応じていくべき課題
- 地域で解決しなければならない課題



# 学習目的

- 地域課題を解決することにより、  
どのような状態に変えたいのか。

住民自らが、学びを通して地域の問題・課題を解決するための「学び」の場づくり

## 学習目的

(地域課題解決の方向性を示す)

どのような課題を、どのような状態にするのか？

地域課題を

こうなしてほしいという  
理想的な状態を考えてみる。

**学習目的例：▲▲（地域課題）を●●●（意図）  
ようにする。**

※ 「●●●ようにする」の部分は、理念的なものでもよい。

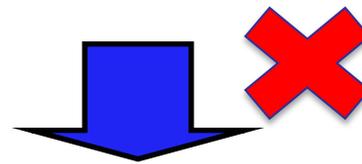
- ・豊かな心を育てる。
- ・道徳心を養う。
- ・仲間意識を育てる。
- ・人材を育成する。
- ・ネットワークを形成する。
- ・地域の活性化を図る。

## ④ 学習目的の設定

シートA

### 地域課題

地域の中心となって流れている、ぱれっと川が汚れているが、地域住民が川を取り巻く環境問題について、自分たちの生活に関連付けて生活していない。



浄化設備を設置し、  
専門職員がゴミ拾い  
やパトロールを行う。

「社会教育」では解決できない？

### 学習目的

かつて地域資源であったきれいな川を取り戻すために、地域住民が一体となり「川をきれいにする」といった気運を高め、ネットワークの構築をはかる。

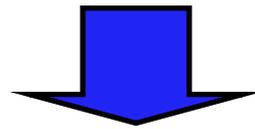
【例】 ▲▲ (地域課題) を ●●● (意図)  
ようにする。

**地域課題から  
学習目的を設定する。**

**⇒グループワーク**

- ・ 「シートA」 (A2)

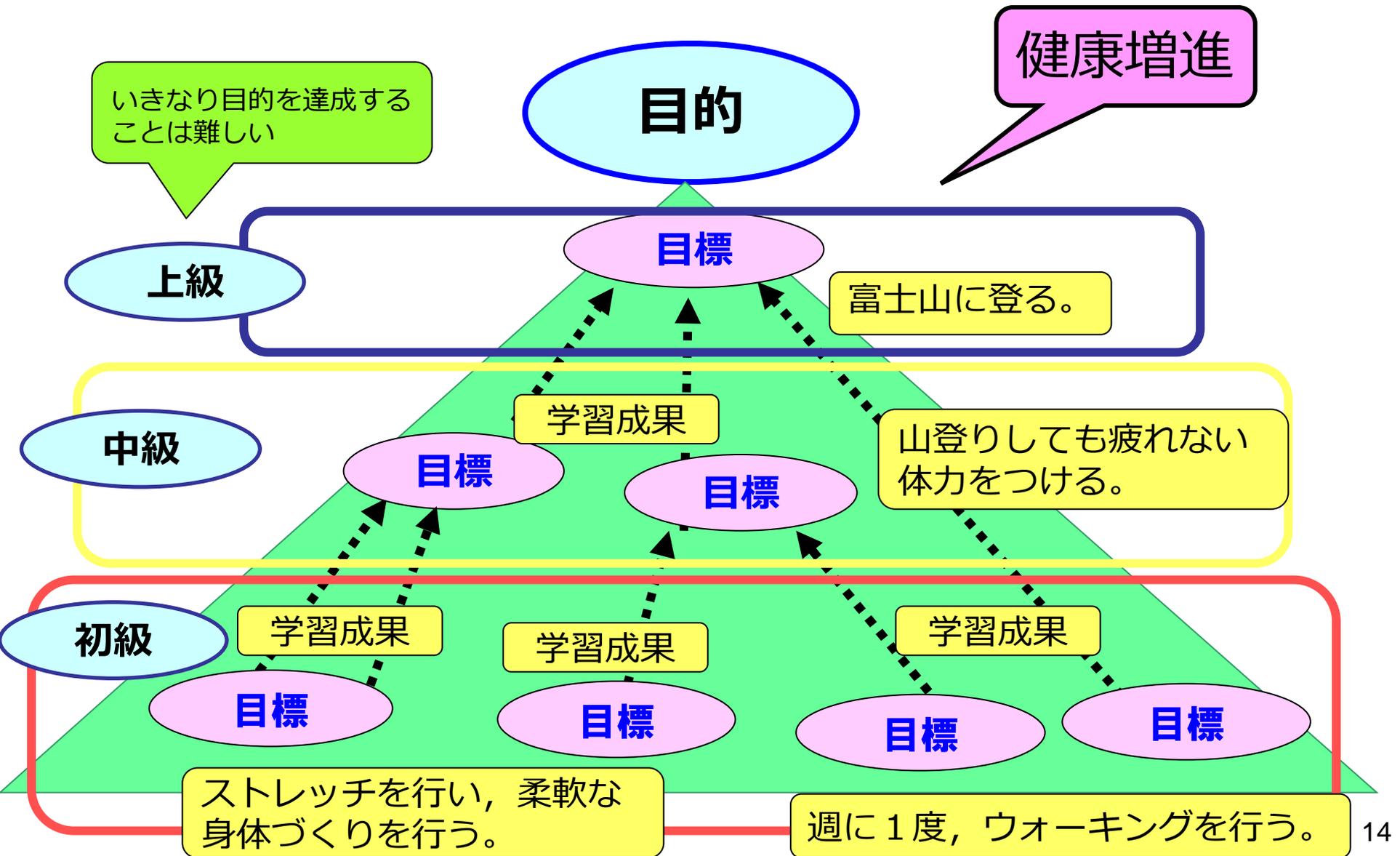
# 学習目的



# 学習目標

- 学習によって、地域住民にどんな**知識**・**技能**・**意識**を身につけてほしいのか。

# 目的と目標の関係



具体的に事業の目標を文章化する。

学習者に、どのような活動によって、どのような**知識**や**技能**を身につけてもらいたいのか。また、学習者の、どのような**意識**を向上させ、価値観を養ってもらいたいと考えているか？

- ア 知らないことを知るようになること **知識**
- イ できないことができるようになること **技能**
- ウ 意識が変わること **意識**

## 学習目標

(例文)

「ぱれっと川の歴史や生物の生息について学ぶことで、川をきれいにする重要性を理解する。」

「住民同士の交流を通して、ぱれっと川の魅力や植物等の地域資源の活用について知ることができる。」

「・・・を学ぶことによって、○○について理解できるようになる。」

### 学習目標

(例文)

「地域住民みんなが一緒に清掃をすることにより、川の環境を整えることができる。」

「住民同士の関係がよくなりお互いの気持ちを伝え合うことができるようになる。」

「・・・を体験することによって、○○○について表現できるようになる。」

### 学習目標

（例文）

「子供たちと共に楽しく川の清掃活動を行うことにより、ごみ問題や環境保全の意識が高まり、地元の川の美しさを守りたいという、愛着が生まれる。」

「きれいな川を大切に作る活動を通して、将来的にも川をきれいに保とうという思いが芽生え、地域同士の連帯感を高める。」

「・・・に参加することによって、○○○への考え方（意識）を広げる。」

- ア 知らないことを知るようになること 知識
- イ できないことができるようになること 技能
- ウ 意識を変えること 意識

ウ意識を必ず1つは入れる。

★学習目標は2つ以上設定

★生涯学習・社会教育の場合は、**ウ意識**が重要

- 主語は必ず学習者
- 目標は必ずそのプログラム内で達成できるもの
- 達成したかどうかを確認できるもの

# 「シートA」の作成（仕上げ）

④学習目的から

⑤学習目標を設定する。

⇒グループワーク

- ・「シートA」 (A2)

# 1 学習目的

# 2 学習目標

どのように地域課題を解決し、  
どのような状態にしたいのかを  
文章化する。

(シートAから転記)



学習課題を学習目標として文章化する。

- ① 学習活動の指針となる目標が設定されているか。
- ② 具体的でわかりやすい言葉で示されているか。

(シートAから転記)



- ③ 学習者に求める知識・意識・態度が目標として示されているか。

### 3 プログラム名

### 4 対象・定員

### 5 参加費

- ・魅力的で夢があるもの
- ・学習目標が伝わるもの
- ・ユニークで、短く、人の心をキャッチするもの



目的や目標に合わせて  
絞り込む。



施設使用料，食費，材料費，保険料，計〇〇円（申込時払い）  
など，内訳や集金日時をはっきりさせる。



## 6 事前に必要な知識や準備物

緊急時の医療機関の情報収集，しおりやアンケートの作成，必要物品の手配

## 7 留意点

安全面の配慮，プログラムを通しての配慮  
(子ども，高齢者ならではの配慮も必要)

# 8 学習プログラムの展開

回・日程	学習のテーマ	各回の学習目標(◎) 学習内容(・)	学習支援者	学習場所	評価 (方法)
<p>第1回○月○日 10:00～ 16:00</p> <p>チラシに掲載する 各回のテーマを内 容がわかるように 簡潔に書く。</p>	<p>◎参加者が…によって ○○になる。</p> <p>①【講義・演習】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・を知る。(○○分)</li> <li>・を聞く。(○○分)</li> </ul> <p>②【参加】 ③【参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・を話し合う。(○○分)</li> <li>・を計画する。(○○分)</li> </ul>	<p>講師, 指導者, ボランティア</p> <p>○○公民館 ○○研修室 ○○キャンプ 場等</p> <p>アンケート, インタビュー 行動観察, 成果物の分析等</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>

- 必ず **3回以上の連続講座**を計画する。
- 学習・活動の成果が、**次の回の学習活動に活用**できるように、各回の流れを工夫する。
  - ・活動の系統性・連続性を重視
  - ・オムニバス形式はよくない
  - ・計画→練習・準備→発表など
- 地域資源の活用**を意識する。

# 「シートB」の作成

- **学習目的や学習目標を意識しながら、「シートB」を作成する。**

⇒ **グループワーク**

- ・ 「シートB」 (A2)

# 学習プログラムの開発におけるPDCAサイクル

**P L A N**

学習ニーズの把握や対象の分析



目的, 目標, 対象, 学習内容・方法,  
時期, 会場, 回数等を定める。

**D O**

実施・運営

会場, 設備, 資料準備, 役割分担確認等

**C H E C K**

プログラム評価,  
学習成果の評価 等



**A C T I O N**

プログラムの分析・改善, 一般化

# 学習プログラムを評価する意義

主催者

- PDCAサイクルの最終ステップ（**事業の改善・充実**）
- 次年度計画の**説明根拠**となる資料
- **中長期的**な見通しのなかでの事業運営  
（人材育成，地域づくり等の事業は短期では達成しづらい）
- **アカウンタビリティ**（説明責任）の必要性

学習者

- **学習者自身が学習プログラム内で**，達成感や充実感を確認する
- ・ 意識づける = **「振り返り」**の教育的な意義

⇒ 学習成果の活用・還元

知識

技能

意識（関心・意欲・態度）

# 主に評価する項目

## ○学習プログラム自体の評価

### ①計画

- ・計画した活動の準備, 実施順序, 活動内容, 目標設定等は適切であったか

### ②実施結果

- ・活動を実施したことによって起きた結果

## ○学習者の学習成果の評価

### ③目標の達成度

- ・学習プログラムの目標は, どの程度到達できたか

### ④波及効果

- ・学習プログラム立案者が想定していなかった成果, 新たな気づきや展開 (波及効果) はないか

主催者

学習者

# 評価のイメージ

学習プログラムの評価

学習成果の評価

## みんなで学ぶ！防災デイキャンプ

災害等の非常時に備え，地域住民で飯盒炊飯をしよう！



スタッフ・協力者

予算

準備物

活動プログラム

参加者数

〔 大人の数  
子供の数 〕

満足度

飯盒炊飯  
の技術習得

住民同士の  
交流の促進

防災意識の向上

地域住民の共助の  
精神の醸成

① 計画

② 実施  
結果

③ 目標の  
到達度

④ 目的の達成に繋がる  
中長期的な見通し  
(波及効果)

# 実施した結果をつかむ

主催者

## 把握すべき実態

### ○参加者数

### ○参加者の実態をより深く知るデータ

例) 性差・年齢・居住地域・学習経験等

### ○学習成果物

例) 作品・発表数

**注意！**：学習歴や参加動機・きっかけなどは含まない。

**(学習評価≠学習二一ズ調査)**

# 学習目標の到達度をはかる

学習者

## 把握すべき実態

### ①知らないことを知ることができたか（知識）

- 例）・理解できたかどうかその場で聞く  
・チェックリストの活用など

### ②できないことができるようになったか（技能）

- 例）・成果物，発表内容の活用  
・活用の方法や場面を尋ねる

### ③意識が変わったか（意識）

- 例）・意見交流や発表の内容を記録  
・アンケートの自由記述の活用

聞きにくいが、  
やっぱり  
③が大事！

# 学習成果の評価の方法

- ① 「振り返りアンケート」の結果
- ② 学習参加者の実態
- ③ 感想文
- ④ 受講者への聞き取り
- ⑤ 学習活動の観察
- ⑥ 会場での発言・質問・拍手などの反応
- ⑦ 学習成果物（作品・発表資料等）
- ⑧ 学習活動の記録

# 「振り返りアンケート」の問題点

- アンケートの回収率の低さ
- コメント（自由記述の少なさ）
- アンケートに対する学習者の理解，記述力の差異が反映しやすい（答えにくさがある）

★項目としては3～5コが限度

★記述式より選択式が答えやすい

★すべての年齢層に紙面によるアンケート方式は適用できない（高齢者や子供等）



- ・ 「振り返りアンケート」に頼りすぎないために、必要な成果を収集する，評価計画の重要性

# 学習プログラムの作成Ⅲ 「シートD」の作成

## 「評価」振り返りの方法

- 参加者の具体的な様子が見える方法をとる。
  - ・活動の記録, 成果物, 発言 (挙手) の反応等

## アンケート項目を3つ作成

- **主催者** として確認したい項目 
- **学習者** が学習を振り返るための項目 
  - ・ **学習目標**の達成度をはかる項目
  - ・ **学習目的**の達成につながるきざしを把握する項目

## ⇒個人ワーク

- ・ 「シートD」 (A4個人用)

## ⇒グループワーク ( 「シートB」 への転記)

- ・ 「シートB」 (A2)

# 学習プログラム開発のポイント その1

- ①地域課題に応える「**目的**」「**目標**」になっているか？
- ②学習者を主体にした**具体的でわかりやすい言葉**で目標が示されているか？  
(「誰が」(学習者) , 「何について」(学習内容) , 「どのように」(学習方法) , 学習するのかを明確にする。)
- ③**対象者**の範囲や人数が適切に設定されているか？
- ④学習者にとって**魅力的な内容**になっているか？
- ⑤プログラムの**順序やつながり**は適切か？  
(各回の学習活動に連続性をもたせ, 起承転結を意識する。)
- ⑥**過去の学習活動の成果や地域の人材などを活用**する工夫がなされているか？

# 学習プログラム開発のポイント その2

- ⑦ 会場や場所，回数や日程，経費や参加費は適切に設定されているか？  
(あわせて，参加者の準備物，主催者の準備物も明確にしておく。)
- ⑧ プログラム名は，人を惹き付けて，内容が分かるものであるか？  
(短い言葉で，どんなことをするのか分かるものにする。)
- ⑨ 目標にあった評価方法が選択されているか？
- ⑩ 参加者の振り返りを促す工夫がされているか？  
(参加者自身による学習成果の確認を大切にする。)
- ⑪ ネットワークづくりの視点がプログラムにあるか？  
(参加者間の相互交流，相互作用を促す工夫をする。)
- ⑫ 学習成果を活用する機会や，次の活動へとつなげる工夫がされているか？  
(活動の継続と発展，学びが広がる(周囲の人へ，生活の中へ)工夫をする。)

# 1 「シートA・B」について

- シートA・Bの画像データをメールで送信します。各自、必要に応じて印刷してください。

# 2 次回までにすること

- 学習プログラム点検シートをもとに、見直しをしてみてください。その際、印刷した画像に書き込んだり、メモや付箋等に記録したりするなど、気付きを残しておいてください。